

きっかけは、 あなたの声

心の中にしまったままの市政への意見・提案はありませんか。「市でこんな活動ができる」と良い「ここを改善すると、暮らしやすくなる」。そんな皆さんの声をお聴きし、まちづくりに生かす「広聴」に市は力を入れていきます。私たちのまちがより住みやすく、より多くの人が訪れるようになる。

そのきっかけは、あなたの「声」かもしれません。

☎秘書広報広聴課 (☎65・2160)

広聴とは読んで字のごとく、「広く聴くこと」。市民の皆さんから意見や提案をお聴きし、市政に反映させたり、まちづくりのヒントにしたりする取り組みです。

声を届ける方法はさまざま。18歳以上の女性を対象の「女性議会をはじめ、中学生が参加する「学生議会」、高校生など若い世代をターゲットにした「西尾市の将来を担う皆さんとのまちづくりトーク」、各中学校区ごとに開催する「市長と語る市政懇談会」など、幅広い世代の方がまちづくりに参加できる場をつくりたいと考えています。また、今年度からは、市長と気軽に話すことができ

る「出張・市長のどこでもトーク」を始めました。広聴への入口は異なりますが、参加した方は自分の住むまちのことが好きな人ばかりでした。

市に委ねてばかりでは理想的なまちづくりは進みません。市民の皆さんが主役になり、まちづくりを自分事として考え、参画するためのきっかけが広聴です。市政について疑問に思っていることや提案したいアイデア、身近で話題になっている取り組みはありませんか。一歩踏み出して、皆さんの声を届けてください。私たちのまち、西尾市をもっとすてきなまちにするために。

私たちにしか見えないものを伝えるチャンスだと思う

福地中学校(写真左から)

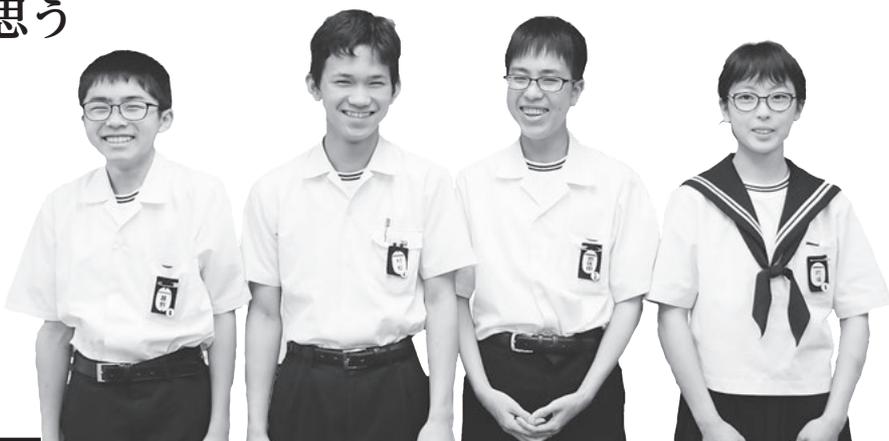
越野良太さん

村松晃さん

羽佐田啓介さん

的場さくらさん

学生議会に参加



緊張したけれど、自分の意見を市長さんに伝えられてうれしかった。僕たち子どもにしか見えないものを伝えられる良いチャンスだと思います。(越野くん)

市長さんと話すのも、人前で発表するのも初めてだったけれど、とても良い経験になりました。西尾市にたくさんの外国人が観光に来て、今勉強している英語を生かせる仕事が増えてほしいです。(村松くん)

市長さんと直接話すのは、最初で最後の経験かもしれないと思い楽しみました。思っているだけでなく、誰かに伝えるのが大切だと感じました。(羽佐田くん)

大人に囲まれ緊張したけれど、自分の思いを言葉で伝えられて良い経験になりました。高齢者の問題を話しましたが、学校や同世代のことなど、私たちの身近なテーマを話してもいいと思いました。(的場さん)

問題は意外と身近にある みんなもそれを伝えてほしい

吉良高校

伊藤千智さん

まちづくりトークに参加



とても緊張したけれど、自分の思いは伝えられました。市長と直接話す機会はなかなかないので、参加できてうれしかったです。西尾市は外国人が増えているので、外国人とふれあう機会が増えれば。高齢者の方も多いで、

公共交通機関が利用しやすくなるよう整備してほしいです。

将来の夢はたくさんありますが、まちづくりトークを経験して、政治に携わり、自分の意見を発信できるような仕事に就きたいと思いました。

保育士が働きやすいまちになってほしい きっと子どもにもいい影響があるはず

牧仁美さん(吉良町)

女性議会に参加



女性議会のことを知り、仕事で交流のある子育て中のママたちの声を届けようと思い応募しました。議場で発言したことも良い機会でしたが、開催までの過程で市担当者や他の参加者と知り合えたこと、保育士の経験があり興味があった子育ての分野などを市職員

とじっくり話げできたことなどが、貴重な財産になりました。

まちづくりについて自分で思っているだけ、仲間で話しているだけでは何も変わりません。今、市は扉を開け、伝える機会を増やしてくれています。ぜひ利用して思いを届けてください。

これからもずっと西尾に住み続けたい 交通の便がもう少し良くなるといいな

星野梨奈さん(市子町)

まちづくりトークに参加

年代を問わず私たち若い世代にも声を掛けてもらい、活気ある西尾市をつくらうと感じました。西尾の魅力は地域でも学校でも人と人の距離が近いところ。中学時代の先生に憧れて教師を目指していて、ずっと西尾

で子どもたちを教えていきたいと思っています。まちづくりトークに参加する人は、若者ならではの意見や提案を気後れすることなく伝えてほしい。これからの西尾市に住んでいくのは私たち若い世代なんだから。



声の届け方はさまざま 主な広聴事業のラインナップ

2



未来を担う中学生に聴く

学生議会

まちの未来を担う若い世代が市政に参画する機会を設け、自分たちのまちに関心を持ってもらおうと、中学生を対象に平成30年度から実施。30年度は、福地、寺津、東部中学校で開催しました。SNSの活用やアテナショップへの出店など、西尾市の魅力を全国へ発信するアイデアや、急増する外国人への対応、多文化共生のまちづくりへの意見・提案がありました。令和2年度までに、市内全ての中学校などで開催します。

元年度の開催校

一色、吉良、幡豆中学校、佐久島
しおさい学校中学位

1



女性の視点をまちづくりに

女性議会

平成30年度から実施。女性ならではの視点で日頃から感じている身近な課題などを意見・提案できます。市役所の議場で、実際に登壇して発言し、市長などが回答します。30年度の参加者からは、子育て支援や女性の活躍促進、防災、中高年生の生きがいづくり、教育環境などへの提案がありました。

現在元年度の参加者を募集中。市内在住で市政に関心があり、積極的に発言できる18歳以上の女性は、どなたでも参加できます。

元年度の開催日時

11月19日(火) 午後1時30分～4時

広聴Q&A



中学生の提案で
実現可能なものはありますか？



フルマラソン大会を開催し、各所で特産品を販売したり、賞品にしたりしてはという提案がありました。開催を予定しているフルマラソン大会に参加者も観客も楽しめるイベントにするための参考になっています。

広聴Q&A



議会の様子を見学したいです。
傍聴できますか？



どなたでも傍聴できます。
託児も受け付けていますので、事前に秘書広報広聴課にお問い合わせください。

4



地域の声を届ける

市長と語る市政懇談会

地区	開催日
幡豆	7月11日(木)
佐久島	7月16日(火)
八ツ面・鶴城	7月30日(火)
米津・西野町	8月20日(火)
平坂	9月19日(木)
寺津	9月26日(木)
福地	10月10日(木)
東部	10月15日(火)

今後の開催予定
2年に1度開催しています。市長などが各中学校区に出向き、市政運営を説明するとともに、市民の皆さんからまちづくりへの意見や提案をお聴きします。事前申し込みは不要で、どなたでも参加できます。

広聴Q&A

Q 地元地区の開催日に参加できません。他の地区に参加できますか？

A お住まいの地区以外の会場にも参加できます。また、会議録を市ホームページで公開しますので、ご覧いただけます。

3



若年層を市政に呼び込む

西尾市の将来を担う皆さんと市長とのまちづくりトーク

元年度の開催予定
これまでの広聴メニューではあまり参加の多くない、高校生や大学生などの若者から市政などへの意見を聴くために平成29年度から実施しています。市内の高校や専修学校の生徒、新成人を対象に、それぞれが考えたテーマで懇談。30年度は、西尾東高校が「西尾市の更なる活性化のための方策」、吉良高校が「防災の取り組み」を、新成人の皆さんは「住みたい、住み続けたいまち西尾」をテーマに実施しました。
鶴城丘高校、白百合学園西尾高等家政専門学校、新成人の皆さん

広聴Q&A

Q 懇談する新成人は、どうやって選んでいますか？

A 成人式を企画・運営する成人式実行委員会の皆さんの中から、希望者に参加してもらっています。

6



市長があなたのもとへ

NEW

出張・市長のどこでもトーク

申込方法

開催希望日の1か月前までに、申込書を秘書広報広聴課へ。申込書は同課に用意。市ホームページでダウンロードもできます。

今年度からの新たな取り組みです。市長がまちに出て、市民の皆さんとフリートーク形式で懇談します。市内在住または在勤、在学の10人以上のグループ・団体であれば申し込みめます。会場は申込者で準備してください。市政について市長と気軽に語り合える機会です。まちづくりのアイデアなどを発言してみてください。

広聴Q & A



Q 会場は公共施設でなくてもいいですか？



A 大丈夫です。カフェでお茶しながらなど、気軽に懇談できます。

5



お茶の間からもまちづくり

市民の声

市政に対する意見や要望を手軽に伝えられる制度です。市役所や各ふれあいセンターなど、23の公共施設に設置されているボックスに投函するが、市ホームページの入力フォームから投稿できます。市の広聴メニューの中で最も利用され、年間400件近くの「声」が寄せられています。回答が必要な場合には、郵送またはEメールで回答します。多く寄せられる意見や市政運営に参考となるものは市ホームページで公開しています。

広聴Q & A



Q 市民の声って本当に読んでもらっていますか？



A 読んでいます。秘書広報広聴課、内容を担当する課はもちろん、市長、副市長、教育長も全ての声に目を通していています。

まだまだあります。広聴メニュー



市政世論調査

2年に一度、無作為抽出した18歳以上の市民3000人を対象に実施。対象者に調査票を郵送し、市政に対する意見や要望を聴いています。結果は市政運営の参考にするとともに、市ホームページなどで公開しています。



広報サポーター

市民の皆さんに親しまれる広報紙を作るために、「広報にしお」の記事の内容や紙面のレイアウトなどについて、毎月広報サポーターにアンケートを実施しています。毎年4月に公募しています。興味がある方はぜひ応募してください。

皆さんのアイデアを市政に 出張・市長のどこでもトークがスタート！

6月2日、「出張・市長のどこでもトーク」が文化会館で開催されました。記念すべき第1回目は、佐久島を拠点に活動するNPO法人「ONE STEP」の皆さんと、不登校やひきこもり問題について語り合いました。深刻なテーマでしたが、会場は終始和やかな雰囲気。ONE STEPのスタッフや、ひきこもり経験者が意見や体験談を語り、生の声を市長に届けました。その後、西尾市での支援体制の構築についてなど活発な意見交換がされ、市長も積極的に質問するなど、問題に対する共通理解を深めました。

ONE STEPの代表理事を務める内田啓太さんは、「テーマが幅広く、一つの課で対応できる問題ではなく、どう市に伝えようか迷っていた。そのとき、この取り組みを知り、絶好の機会だと思い申し込んだ」と応募の動機を話してくれました。司会進行を務めた理事の藤井琢大さんは、「フリートーク形式で市政について語り合える機会はありがたい。気軽に話せる雰囲気で開催でき、かしこまらず、話しやすかったのではないかと感想を語ってくれました。



普段感じていることを 雑談感覚で市長に話してほしい

秘書広報広聴課長 細田 誠

広 聴とは固く言えば「広く市民の意見を聴き、市政に反映させること」ですが、市民の皆さんには、

自分の住む地域のことを改めて考える機会だと思ってもらいたいです。それが地域や西尾市への愛着につながってくれば良いと考えています。

西尾市の広聴の特徴は、何といても市長が直接対話に参加すること。今年度から始まった「出張・市長のどこでもトーク」は、市長の日程の都合もありますが、参加者の希望に合わせて日時を設定できます。会場もカフェなどでも良いので、気軽な雰囲気での対話できると思います。

市民の声で、「広報を多言語で表記すれば、外国人が住みやすくなる」という意見をいただき、2年度から広報にしておに9か国語への翻訳や自動読み上げ機能を追加して、スマートフォンやタブレットで閲覧できるように検討しています。昨年学生議会で、市の道路に季節ごとに違う花が咲く「花の街道」を整備したらどうかという提案がありました。管理な

どの問題で残念ながら実施できませんが、実現できればみんなが幸せになれる夢のある提案だと思います。

聴 いてほしい意見がある、参加してみたいけれど、敷居が高いと感じている方も多いかもかもしれませんが、普段から感じていることを市長と雑談でもする感覚で話してください。一緒にワクワクするまちを作りたい。

